

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Effect of Absorption Behavior of Solubilizers on Drug Dissolution in the Gastrointestinal Tract: Evaluation Based on In Vivo Luminal Concentration-Time Profile of Cilostazol, a Poorly Soluble Drug, and Solubilizers.	共著	2016 年 9 月	J Pharm Sci.	In vivo において溶解補助剤を用いて、難溶性薬物の溶解性を向上させ、吸収効率の向上を検討し、消化管における薬物拡散との相関を調査した。 (田中佑典、久保田敦夫、松尾明、川上彩花、上地弘輝、餅越茜、平町隆明、 <u>笠岡敏</u> 、吉川広之、長田俊二) 担当部分：溶解補助剤の物性評価。(担当頁特定不可能)
2 (学術論文) In vivo evaluation of supersaturation/precipitation/re-dissolution behavior of cinnarizine, a lipophilic weak base, in the gastrointestinal tract: the key process of oral absorption.	共著	2017 年 1 月	Eur J Pharm Sci.	In vivo において弱塩基性物質のシナリジンの過飽和、沈殿、再溶解過程について、経口吸収効率の向上を検討した。 (田中佑典、川上彩花、何松亜美、堀尾美咲、松岡純平、和田貴美、 <u>笠岡敏</u> 、吉川広之) 担当部分：シナリジンの物性評価。(担当頁特定不可能)
3 (学術論文) In vivo analysis of supersaturation/precipitation/absorption behavior after oral administration of pioglitazone hydrochloride salt; determinant site of oral absorption.	共著	2017 年 8 月	Eur J Pharm Sci.	In vivo において pioglitazone の過飽和、沈殿、再溶解過程について、経口吸収効率の向上を検討した。 (田中佑典、川上彩花、今井聡、伊藤貴文、佐伯和紀、 <u>笠岡敏</u> 、吉川広之) 担当部分：pioglitazone の物性評価。(担当頁特定不可能)
4 (報告・発表) 中性子捕捉療法を目的とした膜流動感受性ボロンハイブリッドリポソームの開発	共著	2018 年 3 月	日本薬学会第 138 年会	メラノーマ BNCT に用いる新規リポソームを調製し、細胞透過性ペプチドによる腫瘍標的性を評価した。 (國澤敦、 <u>笠岡敏</u> 、沖島由起、田中佑典、吉川広之、田中佑典、吉川広之、増永慎一郎、小野公二) 担当部分：BSH 封入腫瘍標的型細胞透過性ペプチド結合リポソームの調製と物性評価。腫瘍標的性の評価
5 (学術論文) Selective Accumulation of Boron-conjugated Liposomes Composed of Dimyristoylphosphatidylcholine to B16F10 Murine Melanoma Cells in Relation to Fluidity of Cell Membranes.	共著	2018 年 10 月	KURNS Progress Report	DMPC を主要構成脂質とした膜流動感受性ボロンリポソームを調製し、腫瘍標的性を評価した。さらに、BNCT における治療効果を検討した。 (<u>笠岡 敏</u> 、國澤 敦、沖島由紀、田中佑典、真田悠生、櫻井 良憲、増永 慎一郎、小野 公二) 担当部分：膜流動感受性ボロンリポソームの調製と物性評価。腫瘍標的性の評価。BNCT 効果の検討。